

銅・アルミ

市況見通し

11月

銅

9月の伸銅品生産

橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート



(速報値)は、前年同月比で7・2%増の5万7千ト。前年同月比では4カ月連続のプラスとなった。9月の銅電線出荷量(推定値)は同4・2%減の5万1300ト。

銅輸出は、電気銅が同7・2%減の6万2910ト、銅スクラップが同76・2%増の3万6137ト。

銅輸入は、電気銅が

11月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	10500~11000ドル	横ばい
電気銅建値	161~174万円	横ばい
為替(1ドル)	150~155円 (1カ月間TTM)	横ばい

銅スクラップ景況予想

25年11月の国内銅スクラップ需給は、供給制約が残る中、需要堅調のため「ややタイト(引き締めまり)基調」で推移しそう。

LME銅・為替予想

11月のLME銅相場は、1ト11万5000~1万1千トを想定している。中国のインフラ・再エネ投資拡大に加え、米国の利下げ観測によるドル安が追い風となり、投機資金も流入。南米鉱山の供給不安や在庫低水準が続くことで、需給逼迫が意識され、上昇基調を維持する見通し。

アルミ

が鈍化し、米金利が高止まりする一方、日銀の緩和姿勢は継続。金利差が依然として大きく、円売り・ドル買いが優勢となる見通し。加えて、原油高による貿易収支悪化や国内資金の海外流出も円安圧力になりそう。投資資金の流入が続けば一時155円台を試す展開もあり得るだろう。

11月アルミ市況予測レンジ

LMEアルミ 現物後場買い	2400~2800ドル (現物後場買い)	横ばい
スクラップ	プラス5~プラス10円 (前月最終価格より)	強い

アルミスクラップ景況予想

11月の国内アルミスクラップ需給は、回収・再生処理能力の向上で供給力は緩やかに改善するものの、自動車・建材・飲料缶など需要分野の堅調さが続き、全体としては均衡からややタイトな状態が予想される。価格は高止まり傾向にあり、品質や品位による価格差が拡大するとみている。